



ポケットから手を出す

以前、登校時にポケットに手を入れているのが危ないので気になるとお伝えしました。毎朝、声をかけ続けていると…。遠くにいるときは手を入れている子も近づくと手を出します。子供は大人の反応を伺いながら、やっていいのかダメなのか、許してもらえるのかどうかを考えるようになるものです。私はそうでした。皆さんはどうでしたか？『気になることは声をかけ続けることが大事。』と改めて考えています。

【1年生の植えたチューリップ芽を出しました。春はそこまで…】



「自分学習」のすすめ

一昨年から週末・休日前の宿題をなくしています。担任が休日明けの数日分の宿題の採点やノート確認にかなりの時間がかかることから、子供たちと先生が触れあう時間が減らないようにと考えたからです。平日は宿題の確認に時間がかかりがちなので、せめて休み明けの日は、休みの日の様子を話したい子供たちからゆっくり話を聞いてやれるようにしたいと考えています。子供たちには好評ですが、保護者の皆さんにとっては心配な点もありでしょう。学校評価アンケートでも「宿題がなくなって心配だ。」というご意見をいただいています。親としては、子供が勉強している姿を見ないと心配になるものです。その気持ちはよく分かります。

宿題のあるなしに関しては、前述のような理由なので、日によってその量や内容は変わってきますが、平日は今までのようにドリル的な内容の宿題を出しています。

宿題の量を増やすことは簡単です。では、その採点・確認については誰が行うのか？先生が全員分のたくさんの量の宿題を、全て確実に確認するにはたいへんな時間がかかるであろうことは容易に予想できます。当然、子供たちと話したり遊んだりする時間はなくなります。そして、宿題をやってこなかった子へはどうするか？そのままという訳にはいきません。

宿題は「やること」が目的になりがちです。宿題を出せば出すほど提出することが目的になります。本来の学習内容の定着を図るためには、やった後きちんと確認して行くことが大事です。これを誰がどうやってやるのか？

ご家庭でも宿題の採点・確認を行っていただく、確実に宿題を行うようにご家庭でも見ていただく、宿題をやってこなかった子には休み時間や放課後に学校でやらせる、帰宅が遅れる場合は保護者にお迎えをお願いする。といった方法も考えられますが、いずれも難しいものと考えます。ご家庭の協力はどのぐらいお願いできますか？

こういった課題を解決するために、本校では、「自分の課題に気付いて自分で解決する力を育てる。」として、子供の主体性、課題解決能力、学習習慣の定着を図ろうと考え自主学習（自分学習）を進めています。

先生が出した宿題（やらされる学習）から、主体的に分からないところを学ぼうとする学習へ、自分の分かるところ、分からないところを知り、分かるところを伸ばす、分からないところを分かるようにする学習へ。週末も「宿題はないが自学はどんどんやろう！」と声をかけていて、その具体例も示してあります。中高学年では、自分学習のノートを見せ合って参考にする機会も設けていて、子供たちが互いに刺激を得ています。既に、学年だよりなどで、自分学習のノートを紹介している学年もあります。徐々にではありますが、学習への意欲が高まり、内容も確実に進歩している子が増えてきて、手応えを感じています。言われたことをやったら先生にお任せではなく、自分で自分の学びを考える子に育てたい。時間はかかりますが、子供たちの変化を信じて試行錯誤中です。

それでも気になるという方は、学校へ連絡ください。
一緒に取り組んでいきましょう。～ご意見もお待ちしています。～

